

非常勤教員

氏名	井上 大樹				
学位	修士（教育学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育原理	(著書) 1. 教職概論:「包容的で質の高い教育」のために	共著	2019年9月	学文社	日本の学校と地域の関係について近代学校の成立以降における歴史を概観し、「社会に開かれた教育課程」等教育内容レベルにまで学校と地域の関係を深めようとしている現状の到達点を確認した。また、一方で家庭や地域の機能が弱まり学校の役割が肥大化する一方、学校・家庭・地域の三者の連携で地域の子育て機能を維持する事例に学び、コミュニティ・スクール整備後の学校と地域の関係づくりにおける教員に必要な資質について提起した。
	(学術論文等) 1. 「アクティブラーナー」の基本的資質と学習者の自由	単著	2021年2月	SGU教師教育研究第35号（札幌学院大学教職課程）	1990年代以降、日本における教育政策の「自由化」と「画一化」の矛盾を教師の「ブラック労働」によってカバーする構造的問題が横たわっている。これに対し、苫野一徳のヘーゲルの「自由の相互承認」を基礎にする教育原理論から、教育における学習者の「自由」について教育の本質レベルで再認識する必要性、学習者を交えた教育論議から個々の価値観を認め合うことを前提とすること、を提起した。

氏名	吉野 巖				
学位	博士（行動科学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育心理学	(学術論文等) 1. 小学校算数文章題解決におけるメタ認知能力の育成-小学校5年生「小数の割り算」の実践授業を通して-	共著第1著者	2012年2月	北海道教育大学紀要教育科学編	算数授業でメタ認知的思考を高めることができるか、問題解決も向上するかについて調べた。小学校5年生の実験群クラスで、メタ認知が問題解決に役立つことを説明した上で、問題解決ワークシートとメタ認知的思考を意識させるメタ認知シートを用いてメタ認知的思考を促す介入授業を約1カ月間行った。その結果、実験群は、統制群に対して事後テストのメタ認知得点が有意に高くなり、文章題の問題解決も向上した。また、メタ認知得点が低かった児童は4回の介入授業にわたって得点が有意に上昇した。
	2. 音楽鑑賞における演奏者の映像の効果-音楽心理学研究に基づく仮説の実践授業での検討-	共著第1著者	2014年6月	教育心理学研究	演奏者の映像が楽曲の認知に及ぼす影響と鑑賞授業での有効性について検討したものである。小学校5年生と大学生を対象にした研究1の結果から、「楽曲の諸要素の認知や情景のイメージには音のみ聴取が効果的である」という仮説を立て、研究2で小学4年生を対象にした2時間の鑑賞授業によって検証した。その結果、この仮説が検証され、楽器の認知についても音のみで鑑賞することの優位性が示された。両者の視聴形態の効果をふまえた上での、学習目的に応じた授業計画の必要性について議論した。

氏名	松田 剛史				
学位	修士 (教育学)				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育課程論	(著書) 1. 新教育課程対応 中学校全体計画の作成と運用の手引	共著	2009年8月	明治図書	教育課程には、その要素である各教科等とこれらを横断して達成すべき教育課題が含まれており、その課題の達成を目指して作成されるのが全体計画である。本書は、新しい教育課程を編成する際に必要となる全体計画の作成について、その意義や作成手続き、それぞれの教育課題ごとの作成と運用についてまとめたものである。 執筆箇所: 第14章 持続可能な開発のための教育 (ESD)
	2. ESDでひらく未来シリーズ 持続可能な未来のための教育制度論	共著	2018年3月	学文社	本書の独自性は「21世紀の〈教育制度〉は、現在のままでは持続しない」という強い危機感に裏打ちされ、解決が必要な数々の教育課題の解決に向けて教員自らが「自分ごと」として構想することを主眼を据えていることにある。 執筆箇所: 第3章 中学校社会科ではぐくむ持続可能な社会を創造する力

氏名	追分 充				
学位	学士 (教育学)				
担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
道徳教育の理論と実践	(教育方法の実践例) 1. 「教科教育の実践と課題」の学生教育指導		2013年4月～現在		学校の教育課程の中核となる各教科の授業について、その設計、実行、評価を指導的立場から適切に遂行できる能力を身に付けさせる。
	2. 「教育課程を創る」の学生教育指導		2013年4月～現在		教育課程の原理や歴史の変遷、評価、潜在的カリキュラム等について理論的・実践的に学ぶとともに、教科等、特別活動、道徳科、総合的な学習の時間、外国語活動等の理想とすべき教育課程を作成する。
	3. 「道徳教育の開発」の学生教育指導		2013年4月～現在		道徳教育の重要性や児童・生徒の道徳性の発達について理解を深め、道徳教育の計画や道徳の時間の授業構築を通して、道徳教育の実践的な指導力を高める。
	4. 「子どもの学びを拓く授業づくり」の学生教育指導		2013年4月～現在		10分程度の短い模擬授業（マイクロティーチング）を行うことにより、児童・生徒の学びを切り拓く高度な授業力を身に付けるための授業。

氏名	扇子 幸一				
学位	修士（文学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育相談の基礎と方法 教育相談の基礎	(学術論文等) 1. 社会自立移行に向けての学童期の支援とは	単著	2012年11月	乳幼児療育研究第25号（北海道乳幼児療育研究会）	特別支援教育スタート後、普通学級に在籍する軽度の発達障害児童への就学期間の支援は充実して来ているが、それが真に社会移行につながるためのものとなっているか、またそうなるための条件はどのようなものであるか、スクールカウンセリング等支援の実践から分析、整理した。
	2. 子どものみかたと大人の役割—大人の期待に添って育つ若者たちを喜ぶべきか	単著	2015年8月	子どもロジ—第19号（北海道子ども学会）	虐待の急増に示されるように子どもたちの生育環境は決して好転しているとは思われない。しかし、この間、非行を始めとする問題行動は大幅に減少し、現状に満足を示す若者たちが増えている。こうした若者のありようがどのように生じているかを分析し、その健康度について考察した。

氏名	村田 尋如				
学位	修士（政治学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	(教育実践資料) 1. 町立高校設置に関する検討報告書	共著	2017年3月	新得町教育委員会	新得町のこれまでの全町教育の理念と歴史を勘案した、新たな高校づくりを進めるため、新得町立高校対策専門員として任命を受け、新得町立高校の教育の枠組みとしての教育理念、新たな町立高校としての教育制度の考え方を示すとともに、「総合的な学習の時間」と「特別活動」を活用した地域との連携による体験学習を柱とした教育課程の編成の案を構成し、町民に示す報告書を作成した。（執筆部分：p.1～24）
	(論文) 1. 「総合的な学習の時間」における栄養教諭の食に関する指導の現状と課題—北海道における実態調査を踏まえて—	共著	2020年10月	天使大学	全道の栄養教諭に対するアンケート調査結果を基に、食に関する指導の授業としての実践の少なさについて、その課題を明らかにしたうえで、「食に関する指導の手引」や「食育推進基本計画」にある「総合的な学習の時間」や「特別活動」での授業実践の重要性に鑑み、どのように取り組んでいくべきかという方向性を探る内容について執筆。（執筆部分：共同研究により抽出不可能。）
	2. 1970年代「学力」論争にみる「総合的な学習」の理論的基礎—広岡亮蔵「三層説」を起点として—	共著	2021年3月	札幌大谷大学	「総合的な学習」の理論的な基礎をなす事柄について、その起源となった事柄の一端を明らかにするため、学習指導要領の記述を考察し、その上で、1950から70年代に唱えられた「三層説」について検討し、考察した内容を執筆。（執筆部分：p.103～114）